

## 第10回 防災カフェを開催しました。



### 『災害報道』

ゲスト：丹羽 尋人 氏

(日本放送協会 大津放送局 放送部 副部長)

日時：2017年3月16日(木) 18:30~20:45

場所：滋賀県危機管理センター1階 エントランスホール

ファシリテータ：吉岡 大輔 氏

(日本放送協会 大津放送局 放送部 アナウンサー)



ゲスト：丹羽 尋人 さん



ファシリテータ：吉岡 大輔 さん

災害報道は、選挙報道とともにNHKの報道の柱であり、NHKの存在の根幹にかかわるもので、放送法、災害対策基本法、気象業務法のそれぞれに役割が規定されています。災害報道のための取材や放送への配慮、考え方のお話を聴き、私たちが放送をどのように受け取ればよいのかを一緒に考えました。

NHKの災害報道は、リアルタイム性の高いテレビ媒体として、今何が起きていて、どんな危険があるのかを時々刻々伝え、被害を減らすことが求められています。そのために「事実に基づく正確な情報をいち早く得る」「得た情報を迅速にわかりやすく伝える」ことを重視し、現場中継も積極的に行いますが、視聴者がパニックをおこしたり、誤解をしたりしないよう、配慮をしながら放送を出しているということです。例えば台風による強風の戸外や高い波が打ち寄せる防波堤からの中継は、その場所でも安全だと誤解されてしまいかねないため、最近は行わないようにしているということでした。

現場の様子をテレビで正確・迅速に伝えるには、撮影や編集、映像伝送などさまざまな機材のほか、記者・カメラマン・編集マン・アナウンサー・技術マンなど多くの人の連携が必要で、総力を結集して行うものだという事です。

ゲストの丹羽さんは、情報取材のデスクで、原稿チェックや取材指導などを担当されているということで、テレビの取材は、前もってリサーチをするなど、他の文字媒体の取材よりも早くから動く必要があるということでした。

また、アナウンサーや記者は現場に着いたら5分で放送を始めることもあるということで、そのための訓練の様子もを見せていただきました。最近では、IP技術で、携帯端末を中継カメラにしたり、テレビカメラだけで中継できたり、少人数で迅速な中継が可能になってきているそうですが、それを使いこなすには、かなりの訓練が必要だということでした。

このほか、緊急の災害報道に備え、独自の地震計や、お天気カメラ（ロボットカメラ）を各地に整備しているほか、日常的に訓練もされていて、訓練の様子もを見せていただきました。大阪を東京のバックアック拠点としていて、東京で大きな災害が起きても放送を続けられるようにしているほか、各地の放送局でも防災対策を進めているということでした。ちなみに、大津放送局は平成31年度中にも県庁近くに移転予定だそうです。



地震の規模に応じて情報が刻々と伝えられる

大きな地震が起きると、初動として緊急地震速報が出ます。その後テレビでは一報を字幕スーパーなどで、ラジオでは流れている放送に割り込んで状況を伝えます。深刻な被害が予想されると特設ニュース、テレビ画面をL字型に分割して文字情報を出すこともあります。発災後、3~4分間はアナウンサーが次々に送られてくるリアルタイムの情報を取捨選択して一人で放送をする訓練しているということでした。



改善された地震速報(2016.11.22)

その後、テレビではデータ放送も使って常に新しい情報を伝え、ラジオでは地域に密着したライフラインの情報を伝える準備もしています。

2011年の東日本大震災では、大津波からの避難の呼びかけが通じずに多くの犠牲者が出たことや2016年の台風10号による水害でも避難勧告を伝えたのに福祉施設で多くの犠牲者が出たという反省から、避難呼びかけの改善をしているということです。聞いただけで危険が迫っているとわかる、力強い大きな声で呼びかけ、自分だけは大丈夫といった「正常化の偏見」を取り除く工夫だということでした。特に大津波警報の場合は、命に係わる非常事態であることを明確に伝え、速やかな避難の必要性を強調するようにしているということで、実際の放送の様子を使って説明していただきました。

最後に、私たちが災害報道に関わることができるということで『スcoop BOX』の紹介がありました。これは、スマートフォンで撮影した動画などを、NHKに送るものです。撮影は、「画面は横・カメラの移動（パン）はゆっくり・前後10秒程度は静止」が理想だということでした。ただし、くれぐれも危険な場所に近づかないでほしいということでした。

参加者からは多くの質問がありました。その一部を紹介します。

問:被災者として報道してほしい場合は断れるのですか？

答:マスコミ側が意義有る報道だとして説得するかもしれませんが、本当に嫌な取材は現場でしっかり断っていただければありがたい。

問:避難について報道したが、空振りになることについての考え方は？

答:空振りをためらって、人命が失われることにならないようにしています。

問:障害のある方への避難の呼びかけでNHKとして工夫されていることは？

答:「近所の人に呼び掛けて避難してください。高齢者とか障害のある方が入っている場合は手助けをしてください」というようにしていますが、津波の場合はそれが被害を大きくすることもあり判断が難しいところです。大災害では多くの場合、福祉避難所が設けられるので、その情報は必ず伝えるようにしています。



丹羽さん、吉岡さん、参加者のみなさん、ありがとうございました。